

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0890100399		
法人名	医療法人社団 正信会		
事業所名	グループホーム うちはら		
所在地	〒319-0323 茨城県水戸市鯉淵町4708-41		
自己評価作成日	令和 4年 9月 18日	評価結果市町村受理日	令和 5年 1月 17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyouSyosyoCd=0890100399-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和4年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた環境の中 理念にある「いつまでも元気で過ごすことができるように」と日々活動的に軽体操・上下肢運動等様々な脳トレを取り入れたり旬の野菜や果物を食卓に提供し、季節に応じて行事を行い、楽しみ(回想も含め)とすることができるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は閑静な場所に位置し利用者が穏やかに過ごせる環境になっている。事業所を運営する母体が医療機関であることで、利用者の健康管理は月1回の往診から2週間に1回の通院、6ヶ月に1度の定期健診、週1回の母体の看護師による健康管理、緊急時には24時間搬送可能な体制で利用者が安心して暮らせるほか、家族等や職員の安心に繋がっている。隣接する同法人運営のグループホームとは日常的に協力体制を築きながら利用者が元気で過ごせるよう日々の生活やレクリエーション時には必ず体操を取り入れるとともに、利用者の要望や訴えのある行動は職員の見守りの中で支援し利用者の満足感に繋げている。近隣住民が作った野菜の収穫を利用者にさせてくれるほか、非常時には近隣住民宅の井戸の開放、応援など近隣住民とは強い協力体制を構築している。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設独自の理念を掲げ 職員が把握できるように見えるところに掲示し 実践できるように努めています	理念の中にある「元気に過ごす事ができるように・・・」を意識し、日々の生活やレクリエーション時には必ず体操を取り入れるとともに、利用者の要望や訴えのある行動は職員の見守りの中で支援し利用者の満足感に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方の畑から野菜の収穫をさせて頂いたり 行事の声掛けをして セタや夕涼み会などで 使用する竹などをいただいたりして 地域の方と 交流ができるように努めています	運営推進会議の委員が畑で野菜を作り、収穫だけ職員と利用者で行っている。近隣住民から野菜のおすそ分けやセタの笹、流しそめん用の竹などをもらうなど、コロナ禍でも近隣住民との交流ができています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウィルスの為ボランティアの方の行事の参加は ありませんが運営推進会議を通して認知症の方の理解をしていただいています			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面や電話でうちはらの状況をお知らせしています お互いの情報を交換して介護の質の向上 現場に活かせることが 出来るように努めています	現在は書面開催となっており、各委員に議事録を送付し、感想や意見等を記載してもらう意見書となっているが、委員から運営に反映する意見を得るまでには至っていない。	事前に課題を委員に投げかける等の工夫を取り入れながら、運営に反映する意見を得る活発な運営推進会議となることを期待する。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	うちはら高齢支援センターで実地している事例検討会で 意見を交換したり市の地域密着型事業所の協議会での情報交換に参加し 協力関係を築けるように取り組んでいます	市担当職員と電話やメールで随時連絡を取り合い、連携を図っている。うちはら高齢者支援センターで実施する事例検討会や地域密着型事業所の協議会は開催されているが出席は状況を見て行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進会議で 議題を出して話し合っています また 施設内でも勉強会や職員のミーティングで 話し合い 身体拘束の無いケアを心がけており 日々の介護に努めています	運営推進会議時で身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会を開催している。職員は年2回DVDを観て研修を行っている。身体拘束を行う際に必要な書類を整備している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員と夜勤者とのミーティングを行ったりして 虐待の認識を深め 虐待の有無を確認 注意をし合って虐待の無い介護につとめています		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社共の支援をいただいている利用者様が居ります 個々の必要性に応じて関係機関と話し合いをして支援をしています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様などに見学をしていただき 十分な説明をさせていただいた上でご利用の開始をしていただいております		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍のため 家族様には電話などで意見や ご要望を聞いています 玄関先 窓越しに面会をし電話で話しながら利用者様の元気な姿を見ることが出来る様にしている その際にもご家族様の意見を聞いています	面会時には必ず声をかけを行い、意見や要望、困りごとはないかなど聴くように努めている。事業所内での解決や運営者まで繋がる解決策のフローチャート形式の手順を記した紙を管理者や職員が目につく場所に置いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や要望はミーティングなどで話し合い 定例会議の場で意見を出して 職員の要望等が反映できるように努めています	管理者は日常気が付いた時に随時職員と話している。月例会議が各週水曜日に実施され、出た意見等を月1回の全体の幹部会議で話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の要望や体調を聞き入れてシフトに反映しています 職員同士 助け合いながら仕事ができる様 連絡を取り合いながら 各自が嫌なことが無く勤めることが出来るように取り組んでいます		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加できるようにシフトの調整をしています 研修内容は職員間で話し合ったり 研修内容が見えるように掲示しています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高齢者支援センターでの事例検討会に参加する事で 同業者との方との交流が図れるように勤めています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族やご本人から要望や困っていること不安なことを傾聴することで 不安が無く安心して過ごすことが出来るように勤めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時に家族の思いや要望を聞き 信頼関係が築けるように努め 支援できるように職員間でも話し合い 共有に努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人 家族それぞれの意向をうかがい 話し合い ニューズに応じた本人の思いが継続できるか 今 何の支援が必要かを見極めながらの支援に努めております		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事はしていただき それが本人の喜び(頼られる)となるよう 労いながら共に暮らすという意識が持てるよう 良い関係が出来るように努めています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いをご家族にも御伝えしたり 外出の依頼の相談をし 安心して生活出来るように電話支援も行いながら ご家族様と共に支えてゆけるように努めています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため今は出来ていません 電話などの支援はしてゆきたいと思います	入居時のアセスメントシートや家族等から聴いて人間関係を把握している。コロナ禍前は外出の希望があると家族等に伝え、出かけるよう支援していた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の レクリエーション・お茶・おやつなどを提供し コミにケーションを取りながら共有の場で共に安心できる環境づくりやトラブル防止にも努めています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了は死亡か 特老や療養型病床への移動となるため 退居後の支援はありません		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の動作や表情から 思いを汲み取るように努めています 利用者の希望で洗濯や掃除をしています 職員と一緒にすることなどで 意向の把握も出来るように努めています	利用者の希望で掃除や洗濯を干したり、たたんだり、今までしていたことをしたいという利用者に職員は見守りながら、作業をしてもらうなど、利用者の満足感を得られる支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人に伺うことで把握に努めています 不足するようなことは日々の会話の中から聞き取るようにしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体操やレク 外気浴時などで現状の把握の努め 介護記録や申し送りなどで総合的なことを共有し現状の把握に努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人の意向・医師の意見を元に作成しています モニタリングや状況の変化に応じて介護計画書を見直しています	利用者の変化等を個人記録に記載し状態に応じた見直しや、季節行事・散歩等を取り入れた出来るだけ個別性のある介護計画の作成を心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化を個人記録に記入し 申し送りで職員間には情報を共有することで 実践や介護計画の見直しに生かせるよう努めています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その日に応じて柔軟なサービス・対応が出来るように話し合いを行いながらサービスの多様性化に取り組んでいます 協力病院以外の受診にはご家族様の協力の下に行っています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々に協力を頂きながら行事等を行い 心身の力を維持 発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しめるように支援しております		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の受診説明をしています 協力病院以外の受診には家族の協力で行かれています 受診結果は家族にも伝えるなど情報を共有しています 変化のあるときは 随時家族に連絡をしています	2週間に1回、母体の医療機関の送迎車で、通院している。週1回訪問看護師が来訪している。利用者の体調の急変に備えて、緊急時には24時間搬送可能な体制としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の様子の変化は看護師に報告相談し 健康管理やケアについての指示を頂 適切な介護ができ 適切な医療や看護を受けられるように支援しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して療養できるように看護・介護サマリーなどで情報を交換しています 相談しやすい関係もできる様努めています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行っておりませんが 重度化に関する事は 契約時に説明して 同意を頂 同意書にサインを頂いています	運営母体が病院であり、医師や看護師がこまめに健康観察を行うとともに職員が「重度化・終末期と判断する基準その他の対応マニュアル」を参考にしながら判断をしている。緊急時には24時間搬送可能な体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内の研修や 随時看護師に支持を頂くことで習得できるようにしています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間や地震を想定した訓練を 隣のGHなのはなと 合同で実地しています 地震に備えた備品を備えています	夜間想定を含む避難訓練を行い、訓練後は反省会を行って次回に向けた課題について話し合っている。非常時には近隣住民宅の井戸の開放や応援を得られるなど、協力体制を構築している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し 一人ひとりに合わせた言葉使い 接遇の研修を行いプライバシーに配慮した対応に努めています	人格を尊重し、一人ひとりに合わせた言葉遣いや接遇に配慮している。人権尊重や守秘義務については重要事項説明書に明記し、家族等に説明しているが職員研修を行うまでには至っていない。	人権尊重や守秘義務、肖像権に関する内容の把握のために定期的に職員への研修を行うことを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の会話の中から 本人の思いや考えを伺えるように努めています 利用者も話しやすいように配慮しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに沿って見守りをし その人らしい時間を過ごすことができるように努めています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月毎の訪問散髪で 髪のカットをしていただき 身だしなみも本人の意向にそった整容に努めています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各個人にあわせた調理をし 盛り付けもしています 敷地内の野菜や近隣からの野菜の頂ものを提供しています コロナ化であり 黙食 パーティションの使用もしていますが 下膳など出来る事はお願いしています	母体法人の管理栄養士が献立した食材を職員が取りに行き、厨房担当職員が利用者に応じたきざみ食などを提供している。利用者は職員と一緒にしそジュースや「ならせ餅」を作って木に飾るなど楽しみながら手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立に基づき調理を行い食事量や水分摂取のきろくをして 状態においてきざみ食やとろみ食の提供をしています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行えるようにコップ・歯ブラシの準備をし 見守り声かけで行っていただいています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者それぞれの排泄パターンにより 声かけ誘導にて 日中のトイレでの排泄を支援しています 夜間はポータブルトイレを使用させていただいてオムツをしない様に支援しています	ポータブルトイレを使用しておむつを減らすよう努めている。利用者の訴えに合わせたトイレへの誘導で、紙パンツから布パンツにパット使用に改善している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ルハビリ体操で 体を動かし 水分補給を促したりして 便秘の解消ができるよう支援しています 頑固な便秘の方は 看護師・医師に相談しています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日となっていますが ゆっくりリラックスして 入浴を楽しめるように支援しています 入浴の順番に配慮して 季節に合わせた入浴 菖蒲湯やゆず湯などの準備もしています	基本週2回の入浴としているが利用者の意向に沿っていつでも入れるよう支援している。ゆず湯やしょうぶ湯で季節感を味わっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はリハビリ体操やレクリエーションを行い 活動的に過ごせる様支援し 昼食後の休憩や休息をしていただき メリハリのある生活をしていただき夜間 良く入眠出来るように支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が処方箋で薬の確認を行い 副作用のについても全員で共有し把握する様努めていて 誤薬の無いように 各自の名前の確認をして服用を促しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人に出来る事はお手伝いをして頂いて 労いの言葉を掛けています 季節毎に行事を行い楽しんでいただいています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には職員付き添いで外気浴をしながらラジオ体操を行ったり 散歩に行き 花見や 芋ほりなど地域の人の協力の下に行っています	天気の良い日には駐車場で外気浴やラジオ体操、散歩や花見、芋掘りを行い外の空気に触れたり体を動かしている。コロナ前は近所の公園に出かけるなどしていた。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理をされている方はおりません ご家族に必要な買い物を依頼しています 事務所で管理を行い代行で買い物をしている方がおります		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内の電話の取次ぎなどで 自由にやり取りできるように援助しております		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花 野菜の栽培や収穫を行い 廊下に行事時の写真を飾り見ていただいております 共有空間での室温や音の大きさにも注意し 配慮しています	玄関には観葉植物や沢山のメダカを栽培、飼育している。廊下は天井が高く一直線で、両サイドに手摺が設置され、壁面には行事の写真を掲示している。食堂兼居間の一角に小上がりの畳スペースがある。食堂兼居間からは中庭が眺められ、光が差し込む温かい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居心地よく好きな場所で過ごすことが出来るように テレビやソファの位置に配慮したり 座布団を置くなどをしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人が自由に使用しております 本人の使い慣れたものを持ち込み 飾るなど自由にされています	居室の入り口に表札や目印となる折り紙などを飾っている。管理者は自宅で使い慣れた品物を持ってきて欲しいと利用者や家族等に伝えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっていて 手すりなどの設置をし 本人の力量に応じた生活が出来るように配慮し 夜間など廊下やトイレの明かりを消さないようにしております		

(別紙4 (2))

目標達成計画

所名 グループホーム うちらは

作成日 令和 5年 1月 10日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	運営推進会議で運営に反映する意見を 得られるように 推進会議に議題を投げかけ るようにする	運営推進会議で意見をもらえるよ うにする	事前に課題を投げかけて 意見をもらえるよ うにする	3ヶ月
2	36	人権の尊重や守秘義務・肖像権に関する内容 の 内部研修を行えるようにする	定期的に内部研修を行うようにす る	2～3ヶ月に1回の内部研修を行ってゆくよ うにする また 外部の研修も機会があれば 参加できるようにしてゆきたい	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。